

# 学びや

ヨイムスソーツ

写真から白黒写真へ、服ていきました。写真是下京装も昔のものになつていきました。最初5人が教壇に立つてくさまが見られ、長い学年で最初の首座教員となつたり、そのリーダーといふ校の歴史を感じさせるものです。

下京区の開智小（現在は学校歴史博物館）には、1869（明治2）年、小学校が開校した当初の先生の肖像画が所蔵され初期は一校あたりの教員す。

本作は明治の早いころ、首座教員とは、教師たちは統率する役で、今のが校長に近いものでした。統率といつても明治時代法で上半身の姿が描かれています。

教师となり、その後は年間子どもたちを教えました。

新しくできたばかりの「小学校」とは一体どのようなところなのか、まだよく分からなかつた子どもや親にとって、親しみがあり、尊敬する手習

師匠が教師となつてくれることは本当に心強かつたことでしょう。

立派な肖像画が制作されたことからも、森がときなどを教える手習塾でも敬われていたことが分かります。こうした教

学校の校長室には、よく歴代の校長先生の肖像写真が飾られていることがあります。威厳のある顔がずらつと並んでおり、さかのぼるとカラーリ

## 子どもらに尊敬され制作



神田文祥筆「森九郎助像」  
(明治時代初期、元開智小蔵)

森九郎助は幕末、寺町高辻北に居を構え、森石華の号で書家として活動していました。また、近所の子どもたちに読み書きなどを教える手習塾（寺子屋）の先生でもありました。

明治になり、新たに小学校ができることになる学校と、教育機関を整理統一するという政府の方針に従つて、多くの寺子屋や

立派な肖像画が制作されたことからも、森がときなどを教える手習塾でも敬われていたことが分かります。こうした教師たちが、江戸から明治への教育のスマーズな継承に一役買つていたのです。

（京都市学校歴史博物館  
学芸員 森光彦）